立命館大学国際言語文化研究所

連続講座「国民国家と多文化社会」第14シリーズ

コリアン・ディアスポラ―交差する多様な表現

第１回　10月31日（金）16：30～19：30

高麗人（コリョサラム）は，どこにいくのか？

―ディアスポラを生きる旧ソ連のコリアンの記憶を追う我らの旅―

報　告　者：姜信子氏（作家）
アン・ビクトル氏（写真家）

通　　訳：浜田真理氏

コメンテーター：西成彦氏（本学先端総合学術研究科）

第２回　11月7日（金）16：30～19：30

映画『青～chong～』と最新作について

報　告　者：李相日氏（映画監督）

コメンテーター：中川成美氏（本学文学部）
梁仁實氏（本学社会学研究科院生）

第３回　11月14日（金）16：30～19：30

日本語の未来，詩の未来

報　告　者：金時鐘氏（詩人）
細見和之氏（詩人）

コメンテーター：藤井たけし氏（成均館大学校史学科院生）

第４回　11月21日（金）16：30～19：30

テレサ･ハッキョン･チャの表現：言語・映像・身体

報　告　者：池内靖子氏（本学産業社会学部）

コメンテーター：レベッカ･ジェニスン氏（京都精華大学）
金友子氏（本学文学研究科院生）

第５回　11月29日（土）14：00～19：30

『ディクテ』上演とシンポジウム：コリアン･ディアスポラとアート

公　　演：オ･ギョンスク氏（劇団MYTHOS代表）他７名

パネリスト：木村典子氏（演劇コーディネーター）
松田正隆氏（劇作家）

コメンテーター：鄭暎惠氏（大妻女子大学）　徐京植氏（東京経済大学）
北原恵氏（甲南大学）　嶋田美子氏（アーティスト）
長畑明利氏（名古屋大学）　金惠信氏（学習院大学）
イトー･ターリ氏（パフォーマンス･アーティスト）

会場：立命館大学衣笠キャンパス

10月31日　アカデメイア立命21　K209
11月７，14，21日　創思館カンファレンスルーム
11月29日　アート･リサーチセンター　多目的ルーム

コリアン・ディアスポラ―交差する多様な表現

19世紀から20世紀にかけて，わたしたちは植民地主義，帝国主義による大規模な世界戦争に動員され，夥しい殺戮を経験してきた。戦争の世紀といわれたこの20世紀的なあり方を克服し，いかに新しい共生の世界を展望していくかという課題はわたしたちの切実な課題である。しかし，世界中に湧き起こった大きな反戦平和の声を無視して，圧倒的な軍事力をもってイラクに対して先制攻撃に踏み切ったアメリカ政府の戦争政策を見るまでもなく，戦争は過去のものではない。わたしたちをとりまく世界は，暴力と恐怖に満ちた相貌をますます強めつつある。暴力と恐怖は，単に物理的な軍事力や軍事システムによってだけでなく，現在の新たな国際分業，市場経済論理，グローバリゼーションの進行とからみあって引き起こされている。それはまた新たな「難民の時代」，「ディアスポラ（離散）」ともいうべき状況を生み出し，戦争や政治的，経済的圧迫によって，多くの人々が，亡命者，難民，移民，大量の労働力として地球上を流動している。それは，統計によれば，約１億５千万人，いわゆる「非合法移民」を合わせると約２億５千万人以上になるという。

ところで，コリアン・ディアスポラと呼ばれる人々は，19世紀後半から20世紀半ばにかけて帝国であった日本による植民地支配，さらに戦後の南北分断と冷戦体制という歴史的状況によって，日本，中国，旧ソ連の中央アジア諸国，アメリカ合衆国，ブラジルなどの各地に総計およそ500万人が離散したといわれる。2002年の韓国光州のビエンナーレでは，そうした歴史的コンテクストを背景として，日本，中国，旧ソ連の中央アジア諸国，アメリカ合衆国，ブラジルの各都市に住むコリアン・ディアスポラのアーティストたちの作品が展示され，さまざまな声が響きあい，多様な表現の交差する空間を創り出していた。1998年秋に本研究所では，10周年の国際シンポジウムにおいて，「アジアのさまざまな声―交差する多様な表現」というテーマを設定したが，今回の連続講座はそれを引継ぎ，コリアン・ディアスポラのさまざまな声，交差する多様な表現を掘り下げたい。20世紀の帝国主義や植民地主義の歴史，その予期せぬ結果としての難民，移民，亡命者たちの経験，そして現在も新たに進行しているディアスポラの人々の生，抵抗と表現を抜きにして，わたしたちは真に豊かな共生の社会について展望することはできないと考えるからである。